外務省

令和8年度　優良事業改善事例

事業番号	事業名	事業内容	改善点の概要	選定プロセス及び理由	省内横展開の時期・方法
001268	世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド：GF）拠出金	2000年のG8九州・沖縄サミットにおいて、日本政府が感染症対策を初めて主要議題に取り上げ、追加的資金調達の必要性を G8 首脳間で確認したことを契機に、2002 年、ジュネーブ（スイス）に設立された官民連携パートナーシップ。 開発途上国における三大感染症（エイズ、結核、マラリア）の感染者数及び死亡者数の削減を目指し、予防・診断・治療を実現・促進する事業や、これらの感染症対策の効果的実施のための強靱かつ持続可能な保健システムを構築する事業に対して資金供与を行い、開発途上国が抱える保健課題の改善に貢献している。設立以来、その取組により、支援対象国における三大感染症による死亡率は 65%減少し、7,200万人以上の命が救われている。 日本政府は GF の理事会の構成員として GF の戦略策定や活動方針に関して主体的に関与するほか、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）（SDGs目標ターゲット 3.8）の達成を強く後押しすることで、GF の取組を促進する国際的環境を整えている。	本事業は、これまで中期アウトカムについて、定性的なアウトカム目標のみを設定し、定量的な成果指標を設定していなかった。また、長期アウトカムについて、成果目標と成果指標を設定するものの、具体的な目標年度における成果目標値は未算出であったために、短期アウトカムから長期アウトカムへのつながりが定量的に捉えられなかった。 これらを踏まえ、成果実績を正確に把握するため、支援対象国を対象とした KPI ベースライン調査を実施し、その結果に基づき中期アウトカムの成果指標を設定した。これにより、活動実績と共にその成果の達成状況が明確に把握できるように改善され、事業の進捗を適切にモニタリングし、活動状況を評価できる体制を整えた。また、長期アウトカムについても、最終目標年度である2028年度の目標値が新たに算出・設定された。この改善により、「短期アウトカム」から「長期アウトカム」への一連のつながりを定量的に捉え、経過年度において目標達成に至るまでの現在地点を把握できるようになり、より包括的な視点からの気づきに基づく最終目標達成に向けた改善を可能とするモニタリング・評価の枠組みを構築し、より良い事業管理体制を整えた。	EBPM 推進担当部局である大臣官房考査・政策評価室が行政事業レビューの趣旨を鑑み、外部有識者の所見を踏まえ、候補事業の絞り込みを行った後、外務省行政事業レビュー推進チームが選定した。 本事業の対象は三大感染症対策という複数の外部要因の影響を受けるものであり、また、支援対象国も複数の開発途上国にわたるため、データ収集とその分析は非常に困難を伴うものであるが、適切なデータに基づく指標設定を目指して調査を実施し、成果指標と目標値を具体化し、それらを適切かつ時宜を得た形で報告していることは高く評価される。これにより、モニタリング・評価の枠組みが構築され、中長期的な視点からの点検・評価が可能となり、EBPMの基盤となる「改善」を促す PDCA サイクルを構築して事業管理を行っている点で優れており、他事業の模範となることを期待して選定した。	当省HPにおける本優良改善事例の掲載と合わせて省内回章にて周知するとともに、今後の行政事業レビューを通じた取組改善のための参考とするように奨励した。